## 2.2 多値変数

前回は、二項分布に対してベータ分布が共役事前分布であることを示した。本節では、多項分布に対してディリクレ分布が共役事前分布になることを示す。

K 種類の値を取りうるデータが一つ得られるときの確率は次の通り。

データが N 個得られ場合は、

$$P(D|M) = \prod_{k=1}^{N} \prod_{k=1}^{K} \prod_{k=1}^{N} \prod_{k=1}$$

最尤推定によるμの解は、

となる。(これまで通り尤度最小化すれば良いので略) ここで、カテゴリが出た回数を確率変数とした時の確率関数が<mark>多項分布</mark> と呼ばれる。

$$M_{u}[t](m_1, m_2, ..., m_k | M, N) = \begin{pmatrix} N \\ M, m_2 ... & m_k \end{pmatrix} \frac{k}{k+1} M_{k}$$

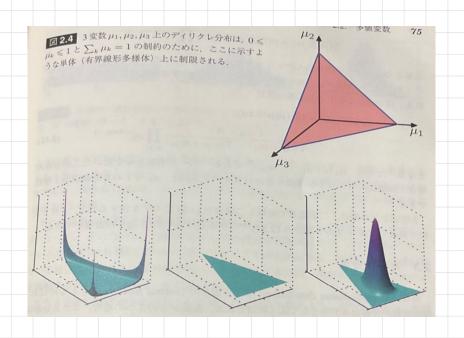
## 2.2.1 ディリクレ分布

多項分布のパラメータ $\mu$ の事前分布として、ディリクレ分布を導入する。天下り的だが、次の性質を持つ分布が、 $\mu$ の共役事前分布となる。

$$P(M|\alpha) \propto \prod_{k=1}^{K} M_k \frac{d_k-1}{d_k}$$

$$[f_z f_z'' \iota, M_1 \iota_1 \quad 0 \leq M \leq 1 \quad 0 \leq \sum_{k=1}^{K} M_k : 1 \quad 2 : k t = 1)$$

これを正規化すると、次の分布が求まる。 (\*\* \*\*\*\* 1 ) やらない



実際に事後分布がディリクレ分布になることを示す。

$$P(M|D,\alpha) \propto P(D|M,\alpha) P(M|\alpha)$$

$$= \binom{N}{m_{n}} \frac{\Gamma(\Sigma \alpha_{k})}{\Gamma(\alpha_{n}) \cdots \Gamma(\alpha_{k})} \frac{\kappa}{m_{k}}$$

$$P(M \mid D, \alpha) = \frac{\Gamma(\sum_{k=1}^{K} (\alpha_k + m_k))}{\Gamma(\alpha_i + m_i) \cdots \Gamma(\alpha_K + m_K)} \prod_{k=1}^{K} \mathcal{U}_{ik}$$

$$(M \mid D, \alpha) = \frac{1}{\Gamma(\alpha, +m_{\kappa}) \cdot \Gamma(\alpha_{\kappa} + m_{\kappa})} \prod_{k=1}^{\infty} M_{\kappa}$$

となり、ディリクレ分布となることがわかる。

## 2.3 ガウス分布

ガウス分布のいくつかの性質について取り上げる。2.3では、多変量 ガウス分布が、座標変換により、独立な1変数ガウス分布の積に分解 できることを示す。2.3.1では、多変量ガウス分布の条件付き分布が ガウス分布となることを示す。2.3.2では、周辺分布もガウス分布と なることを示す。

$$N(\mathfrak{R} \mid \underline{\mu}, \underline{\Sigma}) = \frac{1}{(2\pi)^{0/2}} \frac{1}{|\underline{\Sigma}|^{1/2}} \exp\left(-\frac{1}{2}(\underline{x} - \underline{\lambda})' \underline{\Sigma}'(\underline{y} - \underline{\lambda})\right)$$

が、正具菌交行列  $U$  によ3変模

12 29

[ 12]

$$p(y) = \frac{0}{11} \frac{1}{(2\pi \lambda_i)^2} \exp\left\{-\frac{y_i^2}{2\lambda_i}\right\}$$

y = 0 (x - u)

1 変数 がりみかゆ

ます. こは正定値の対照行列であるので

国有值之国有个了12 21. 以, 色用"、7、又1211 分解できる

$$\sum = \sum_{i=1}^{p} \lambda_i \, \mathbf{U}_i \, \mathbf{U}_i'$$

$$\sum_{i=1}^{n} \frac{1}{2i} \text{ Willing } \frac{1}{2i} = 2\sqrt{2} \ln x \text{ Willing } \frac{1}$$

2 2 2 2 3

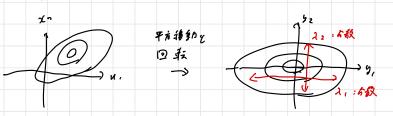
$$\frac{1}{|\Sigma|^{\frac{1}{2}}} = \frac{1}{11} \frac{1}{2i^{\frac{1}{2}}}$$

$$\left| J \right| = \left| \frac{\partial x}{\partial y} \right| = \left| V^{T} \right| = 7$$

$$P(y) = \frac{1}{(2\pi)^{\frac{1}{20}}} \frac{1}{i!} \frac{1}{\lambda_i} \frac{1}{i!} \exp\left(-\frac{y_i^2}{2\lambda_i}\right) \cdot 1$$

 $= \frac{1}{1} \frac{1}{(2\pi \lambda_i)^{1/2}} e \times p \left(-\frac{y_i^1}{2\lambda_i}\right)$ 

査教査接のイターご



己の固有値 みょがのになるとき、かかな合体はある面につぶれていることがわかる。

次に、ガウス分布の1次モーメントと2次モーメントを求めているが、 既に学習済みの内容なので詳しくは扱わない。

1次モーメントについて 積分区間内で、zの1次の項は奇関数なので0となる。0次の項はガウス 分布の全積分で1が出てくるので、係数μだけ現れる。

(181-行目のだ)

2次モーメントについて

$$= \frac{1}{(2\pi)^{0/2}} \frac{1}{|\Sigma|^{1/2}} \int \exp\left\{-\frac{1}{2}z'''_{\Sigma} Z''_{\Sigma} Z''$$

(21 21)

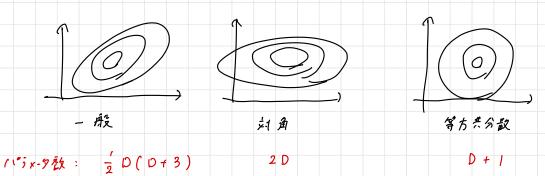
Kss = 
$$\iint \cdots \int exp\left(-\frac{i}{2}\sum_{j}\frac{y_{j}^{2}}{\lambda_{j}}\right) y_{s}^{2} dy_{s} \cdots dy_{0}$$

$$= \iiint_{S} \exp\left\{-\frac{y_{s}^{2}}{2\lambda_{s}^{2}}\right\} y_{s}^{2} dy_{s}^{2} dy_{s}^{2}$$

$$y_{s}^{2} dy_{s}^{2} dy_{s}^{2}$$

共分散行列のパラメータの個数について

ガウス分布でモデル化するとき、次元が大きいと分散行列のパラメータ 数が非常に多くなってしまう。そこで、共分散行列を対角と仮定した り、等方共分散と仮定したりすることで、パラメータ数を減らせる。



## 2.3.1 条件付きガウス分布

多変量ガウス分布をいくつかの変量で条件付けた条件付き分布も、ガウス 分布に従うことを示す。その際に、精度行列を用いると式がシンプルにな ることも確かめる。

$$\mathcal{H} \in \mathcal{H} : \begin{pmatrix} \mathcal{H}_{\alpha} \\ \mathcal{H}_{b} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \mathcal{H}_{\alpha} \\ \mathcal{H}_{a} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix}$$

A を次のように定義し、精度行列と呼ぶ

A: 5'

1 E 1 1 1 7 3. A = ( A aa A ab ) P( xa | x6) E :1: 03 12 13. P(xa, x,) E Raの分介の形に変形し、正規化すれば良い P(Xa, X6)の指数部分の二次形式をðをかくと.  $\Delta^{2}:-\frac{1}{2}\left(\chi-\mu\right)'\sum_{i}\left(\chi-\mu\right)$ (a) b) (a) (b) (1/2-51) = (a'aa + b'ba a'ab + b'b) (a) = @'aa @ + D' @a @ + @'abb + D'bb)@ = - 1 ( Xa - Ka) Maa ( Na - Ka) - 2 ( Xa - Ka) Mab ( Xb - Ab) - 2 (766-16) Aba(Xa-Ma) - 2 (Xb-16) Abb(Xb-16) (2.70) これを Raに関する二次形式 - 1 ( )(a - Malb) 2 alb ( )(a - Malb) + cost (2.71) の形に変形したい

Ka' Zalb Xn = Xa' Man Xa

Raの2次の項を (2.90)を比較すると、

sy. BP在 1: Zalb = Aag 5-1353 次に1次の項を比較する。 『(2.70)の7:名の項目 = 『(2.70)の7次の投目 よ7. De a Zalb Malb = \( \frac{1}{2} \times Ann Ma + \( \frac{1}{2} \text{ Na Ann & A = Ka Maa Ma - Ka Mab ( Xb - Mb) = Xa' { Man Na - Mab (26 - 166) } · a Maa Malb = Maa Ma - Aab (26-Mb) (=) Mall = Ana Anna - Aab (x6-M6)} = Ma - Ann Aab (x6-Mb) \$ , Z. P ( Xa | Xb ) は次の平功 Nalb 共分散行列 Zalb の からみの存に役ら、 [ Malb = Ma - Ana Aab (xb-Mb)

Ealb = Maa-1 ショーアを面行列を使、仁逆行列の公式を使、て、 Ealb を こで陽に表すことがでするらいか. 言しくは撮わない。